

佐久穂町の公式キャラ

しらかばちゃん 災害に強い森を



苗を植える穴を掘るしらかばちゃん11日

元協力隊員山上さん 植林と発信活動

2019年の台風19号災害を機に、独自デザインの食器販売で森づくりの費用を集めていた佐久穂町の元町地域おこし協力隊員、山上雅子さん(44)が今月、町内でカラマツの植林を始めた。災害に強い森が広がることを願って、町の公式キャラクタ「しらかばちゃん」と、この場から森林保護の大切さを伝えていこうと張り切っている。

台風19号被災の衝撃 原点に

台風19号災害時、町に移住するはずと考え、しらかばちゃん、協力隊員を務めていた山さんと一緒に災害に強い森づくりを進めようと思いついた。大量の木が流れ、氾濫するのを目の当たりにして、「山

つこうやって崩れるんだ」と衝撃を受けた。何かしなればと思いついた。町内の林業会社「吉本」専務の由井正宏さん(44)に相談。「木(しらかばちゃん)が自ら森をつくることでメッセージ性が高ま

植林費用を確保するため、しらかばちゃんをデザインした磁器のカップを自前作り、20年11月から販売。1個売れると1本のカラマツの苗を購入すると決め、これまでに200個余が売れた。多くの人が関わってほしい



カラマツの苗を取り出す山上さん(右)

と植林は一般向けイベントとして開くつもりだったが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて断念。今月13日、しらかばちゃんや町地域おこし協力隊員ら仲間9人が下畑区の区有林に集まり、吉本社員に植方を教わりながら、高さ約80センチ育った樹齢2年の苗約300本を約千平方メートルに植えていった。傾斜20〜30度という急斜面に苦労しつつも、参加者たちは汗を流して作業。しらかばちゃんも自分で2本植えた。

由井さんによると、間隔を空けて植えたカラマツ林には日光がよく差し込み、さまざまな種類の木が生えることで、保水性が高く、崩れにくい山になるという。山上さんは今後も食器の販売を続け、森林や町に興味を持ってもらえるようなイベントも企画したいと考えている。